第19回　能美市タウンミーティング（石川県立九谷焼技術研修所）

平成30年１月15日（月）13:30～

石川県立九谷焼技術研修所

【司会】

ただいまから石川県立九谷焼技術研修所タウンミーティングを始めさせていただきます。まず初めに、井出市長がご挨拶を申し上げます。

【井出市長】

きょうはご参加いただきまして、ありがとうございます。

まず、自己紹介をさせていただきます。私の家業はもともと九谷焼の販売をしていて、その後、ノリタケという洋食器の製造会社、ＯＥＭ（他社ブランドの製品製造）をやっていました。その後、ノリタケの本社でも勤務をして、商品設計の責任者をしていたこともあります。特に九谷焼への関心が深いということであります。

皆さんもご存じのように、九谷焼というのはこの能美市、そして石川県の特産品として、石川県の産業の礎となっていた時代もありましたが、今では生活様式も多様化し、それから安価な輸入品がたくさん入ってきたということもあって、恐らくいっときの３分の１、４分の１ぐらいの出荷額なのではないかという状況です。

能美市としても、特産品の九谷焼を何とか能美市の産業の柱としてしっかりと再興したいなという思いで、今回このようなタウンミーティングの機会を設けさせていただきました。

どんなことを皆さんと語り合いたいかといいますと、まずは本音を聞きたいなと思っています。本音というのは、一つは九谷焼に対して皆さんがどのような印象を持っているのか、それから、九谷焼の業界にどのような印象、思いを持っているのか、皆さんがここで学んだことを生かすために、我々能美市あるいは九谷焼技術研修所にどんなことを望まれているのかといった、本音を忌憚なくいろいろ語り合わせていただければと思います。

きょうは所長もいらっしゃいます。皆さんもご存じのとおり所長さんというのは大変お人柄もよい、以前は水族館の館長をされていた方で、いろんなことをご存じだと思いますし、そちらに座っている先生は１歳からの幼なじみで、本当に気心が知れています。今回は本当に本音でいろんな話を聞かせていただければなと思います。よろしくお願い申し上

げます。

【司会】

それでは、きょうは能美市の地場産業であります九谷焼の活性化につきまして、市としてどのような応援あるいは取り組みができるかということを考える機会にしてまいりたいと思っておりますので、皆様方が日ごろから思っていることや感じていることを忌憚なくご発言いただければいいなと思っております。

それでは、進行役を石川県立九谷焼技術研修所所長さんに譲りまして、意見交換を進めてまいりたいと思っております。松島所長さん、よろしくお願いいたします。

【松島九谷焼技術研修所長】

きょうは市長さん初めたくさんの能美市の方々に来ていただきましたけれども、緊張せずにふだんどおりに、ざっくばらんにお話ししてもらえればいいなと思います。

質問をこれから２つ、皆さん方にします。１つ目の質問は、本科１年、本科２年、研究科の順番で、２つ目の問いのときには、逆に研究科、本科２年、本科１年の順番で答えてください。最初に、皆さん方に自己紹介と、それから皆さん能美市に住んでおられますが、よそから能美市へ来た方もいます。この研修所の生活、あるいは外から、県外から来られた方についてはこんなことがあればもっと生活しやすいと思うことがあったらお話してほしいなと思います。

では、トップバッター、A君。自己紹介と、こういうものがあったらもっと生活がよくなるのだけどなというものがあったらお話ししてください。また研修所へ来た動機は何ですか？

【Aさん】

石川県川北町出身のAです。自分は、生活面で、能美市や県が全体をもっと支えてくれたら、将来的に自分も九谷焼をするときに苦労が少なくなると感じているのが現状です。

動機は、昔から絵を描くのが好きだったのですが、現代風の絵を描くより古典的な絵を描くのが好きで、そこで石川県にある九谷焼を見て、将来こういう仕事をするのが向いているなと自分で感じて、そこからいろいろと勉強して、もっと九谷焼を広めて、将来、地域に貢献できるようになりたいなと思ってここに来ました。

【井出市長】

支えてくれたらと言っていましたが、具体的にどんなふうに支えればいいでしょうか。

【Aさん】

資金をもうちょっと提供してくれたら。

【井出市長】

例えば窯やろくろを買うために必要ですか？

【Aさん】

そうですね、道具などを買うのに支援してもらえたらいいなと思います。

【井出市長】

なるほど。仕事をする上でいろいろ設備投資をしなければならない、そういったところで資金援助をしてほしいということですね。

【Aさん】

そういうことです。

【松島九谷焼技術研修所長】

次は、Bさん。お名前、出身地、以前何をしていたか、それからなぜここにきたのか、そこまでお願いします。

【Bさん】

Bといいます。出身は群馬県で、大学を出て、群馬で社会人になって販売業を１年やっていたのですが、販売業をしながら、ものをつくるほうをやってみたいなと思いました。それでもともと絵などを描くのは、そんな得意というわけではないのですが好きだったので、最終的にこの学校を見つけて入学しました。

ここへ来て、周りに自然がいっぱいあって、九谷焼もあって、すごく過ごしやすいです。こっちに引っ越してきてすぐのときに、ここの九谷陶芸村のところの商店街がちょっと寂しいかなと思ったので、もうちょっと元気になったらいいのではないかと思いました。

【松島九谷焼技術研修所長】

自分の生活が群馬県から石川県に変わったわけですけれども、生活をしていく中で、あるいはここの研修生活の中で、こういうものがあったらいいなと思うものありますか。

【Bさん】

群馬県にいるときは、ものづくりしている土地、している人たちとあんまりかかわったことがなかったので比較はできないのですが、何か観光地みたいな感じにこの九谷陶芸村がなれたらよくなるのかなと思いました。

【井出市長】

例えば「観光地となるためには大仏がないとだめだ」ということなどがあるけど、何が

あれば観光地になると思いますか。

【Bさん】

食べるところですか。

【井出市長】

食べるところか。

【Bさん】

お弁当、九谷弁当みたいな。

【松島九谷焼技術研修所長】

次、本科２年のC君、自己紹介をお願いします。

【Cさん】

Cです。能美市出身で、年齢が27歳です。九谷焼を学びたいと思った動機は、地元が能美市ですので地元に帰って働きたいと思ったときに九谷焼をしたくて、オープンキャンパスに来て、次の年にここに入学しました。

【松島九谷焼技術研修所長】

この能美市に住んでいながらここへ来たわけですけれども、こういうものがあれば、あるいはこういうことができれば、今の生活がちょっとよくなるな、あるいは研修生活がよくなるなというようなことがあったらお願いします。

【Cさん】

考えたのですが、そのことについては特に浮かばなくて、ほかのことでいいのであれば、あります。能美根上駅は昔、寺井駅だったときは待ち合い場所があり、ストーブが置いてありました。今は風通りがよ過ぎて、寒いです。どこかに待合室があったら利用する人に喜ばれるなと思いました。全部階段でつながっているのでちょっと使いづらいなと思いました。生活で不便していることはそれぐらいです。

【井出市長】

能美根上駅は電車を待つ人にはホームに待合室があり、今度、迎えに来てくれる人を待つための待合室が階段のそばにできます。

【Cさん】

そうですか。わかりました。ありがとうございます。

【松島九谷焼技術研修所長】

次、その隣のDさん、自己紹介をお願いします。

【Dさん】

Dです。富山県の高岡市出身です。動機は、高岡が職人、ものづくりが盛んなまちだったので、小さいころからものづくりしたいなと思っていろいろ木工や金工、ガラスなどいろいろしました。何かなって探しているとき、高校２年生のときにこちらを見学させていただいて、九谷焼はすごく絵つけが格好いいな、ろくろをしたいなと思って、入学しました。

【松島九谷焼技術研修所長】

富山の高岡からということで、お隣同士の県ですが、ここの研修所あるいは自分の生活をしていく中でこういうものがあったらいいなとか、こういうことができたらいいなということはありますか？

【Dさん】

陶芸村を活性化したいというのは、ここへ来て、住んで、通っていて、皆さんから話を聞いて実感しました。私、今は車をもっていますが、前はありませんでした。いろんなところへ行くときに、やっぱり手段がバスしかなくてのみバスを活用していました。九谷陶芸村を活性化したいというわりには本数が少な過ぎて、泉台は近くのバス停まで少し歩かなければなりません。冬だとやっぱり遠いし、すごく暗いところが多く危なくて、いろんなものを買いに行くとき、やきものをしたいとなっていろいろ材料を買いに行くのにもバスは大事であり、バスの本数を増やしてほしいなって思っていました。

【松島九谷焼技術研修所長】

Eさん、自己紹介、それから動機などをお願いします。

【Eさん】

Eです。私は長野県出身で、大学卒業後、長野県で働いていましたが、その時に陶芸がやりたくなって、どこで陶芸するか考えていたときに金沢に遊びに来て九谷焼を見て、あ、これをつくりたいなと思い、どこで勉強できるのかなというのを調べたところ、こちらが見つかったので来ました。

【松島九谷焼技術研修所長】

長野県と石川県は、北陸新幹線だと約１時間で行けることになりました。長野県と石川県との比較ではないですが、生活のしやすさとか、ここはしやすいな、ここはしにくいなというようなところがあったらお願いします。

【Eさん】

私生活面では、私は車を持ってきたので、車があれば特に暮らしていく中で問題はない

と思います。ただ、前、松本に住んでいましたが、私は結構飲み歩くのが好きで、松本は松本駅にぎゅっと集まっていて、バスで行ってバスで帰ってこられるのですが、この辺だと夜、飲みに出ようと思うと帰ってこられなくて、何かそれがちょっと悲しいなと思いました。

【松島九谷焼技術研修所長】

飲む場所ですね。

【Eさん】

交通ですかね。車がないとやっぱり生活しづらいと思います。でも、車があれば特に問題なく快適に２年間過ごしました。

【松島九谷焼技術研修所長】

ここから研究科です。研究科のF君、自己紹介などをまずお願いします。

【Fさん】

Fと申します。37歳になります。大阪から来ました。もともと伝統工芸に携わりたいなと思っていまして、いろいろホームページなどを使いながら調べていたときに、こちらの研修所を知ってやってきました。全く九谷焼を知らずにここに来て、３年間生活させてもらって勉強した状態の知識しか持ってないです。

前職は20代のころは販売系のサービス業をしていまして、30代に入ってからウェブ系のプログラムをつくっていました。プログラムをつくるかたわら、デジタルよりもアナログのものをつくりたくて伝統工芸を目指してやってきました。

生活面は先ほどいろんな方が言っていたのですが、私も途中まで車がありませんでした。車が手に入って乗るようになってからは、生活面は何不自由ありません。車がないとき、マップでは、のみバスの本数が結構あるようなイメージを受けるのですが、実際使ってみるとすごく不便で、結局、常に自転車で行動していた記憶があります。

この研修所の周り、佐野町にスーパーがあったという話を１年生のときに聞きました。それがなくなってからすごくこの辺は不便なのかなと、地元の方々から聞いていて感じています。

たまたま私、車を持つことになったのでよかったのですが、やっぱりアパートなどの資金面などがいろいろ問題になってきました。ことしで３年目ですが、やっぱり支出ばかりなので、そのあたり、何か携わっている人に関して補助的なもの、一部だけでも負担してもらえたら、車も費用がかかるので何かそういう面で援助していただけたらなとここに通

いながら思います。

研修費以外でも道具代や粘土代で結構支出が予想以上に多かったので、アルバイトだけではやっぱり足りず、貯蓄がどんどん減っていくのはやっぱり寂しいものだなと、その辺はやっぱり切実ですね。

【松島九谷焼技術研修所長】

最後に、Gさん、自己紹介お願いします。

【Gさん】

研究科のGといいます。私は本当に地元の能美市出身でして、九谷焼はもう小さいころからすごく身近なものでした。本当に身近過ぎて、まちを歩いても九谷焼のモニュメントがあり、おうちの食器は茶碗まつりで買ったようなものです。全部九谷焼しかなかったので、はっきり言って九谷焼にはもう飽き飽きしていて嫌いなぐらいでした。大人になってから九谷焼の美しさや古九谷のすばらしさに出会い、こんなにきれいなもの、こんなにいいものということを再確認して今に至ります。なぜこの技術研修所に通うことになったかというと、私はフリーでライターをしていたこともあり、地元も大好きで、地元のことを紹介したいなって常々思っていました。こんな地元の九谷焼ですが全く知らない、技法も知らないし、どんな先生がいるのかも知らなかったので勉強したいなという思いからここに来ました。

九谷焼を内側から学んで得たことをもっといろんな人に紹介できたらいいなという思いで来ました。北陸新幹線も開通し、「九谷焼といえばGさんに聞け」みたいになるといいなという思いもありまして、実際、つくっていると本当におもしろいですし、そっちのけですごく制作に夢中になって３年たちました。今後は、そういった紹介をするという方向で頑張っていきたいなと、新たな気持ちで今います。

【松島九谷焼技術研修所長】

市長さん、皆さんの前に、それぞれ自分がつくった九谷焼が置いてありますので、簡単にA君のほうから、自分の九谷焼の売りを説明してください。

【Aさん】

自分はこの年で言うのもなんですけど山水を描くのが好きで、ずっとここ最近、山水を描いています。これは赤絵細描の授業をしたときに描いたもので、中国の故事にある煎茶をもとに自分でちょっとアレンジして描きました。

【井出市長】

すばらしいね。

【Aさん】

ありがとうございます。

【井出市長】

裏は?

【Aさん】

裏は講師の福島武山先生にどんなふうにしたらいいですかと聞いて教えてもらって、自分で描いてみました。

【松島九谷焼技術研修所長】

彼はこの間の北陸朝日放送のテレビ取材に応じて、「石川ほっとニュース」という５分間の石川県の番組で、堂々と自分の夢を語りました。

【井出市長】

すばらしい。

【松島九谷焼技術研修所長】

その隣のBさん、自分の作品を少し説明してもらえますか。

【Bさん】

私もA君と同じ赤絵細描で最近した課題です。これもみんな同じ素地が配られて、福島先生に教えていただいて、赤絵細描をやってみようという課題です。

【松島九谷焼技術研修所長】

難しかったことと楽しかったことは？

【Bさん】

一つひとつの線が細く細かいのですごく大変でしたが、だんだん埋まっていくのを見ているのは楽しかったです。

【松島九谷焼技術研修所長】

次、C君お願いします。

【Cさん】

これは１年生の最後にあった「写生から図」という授業で描きました。この生地も学校が提供してくれたもので、この授業は写生したものを大皿に描こうというテーマでした。そのときキノコにはまっていたのでキノコを描こうと思って描きました。先生に構図の描き方や、ここをこうしたらいいと教えてもらって、これができました。裏は自由に描いて

よく、幾何学が好きだったので裏は幾何学を描きました。

【Dさん】

私は２年生の課題で、素地はつくっていないのですが、お皿を模様で埋め尽くして描こうというもので、自分は１年生を経て細かい線で描くのが好きだなということに気づいて、自分なりに思いついたまま線をいっぱい描いて埋めてみて、後ろはひたすら点々を打ちました。何かいろんな、青粒という技法などを習い、これも赤絵細描ではないですが赤絵で模様を描くのは楽しいなと思っていろいろ試した結果、できた作品です。

【井出市長】

なるほど、みんなすばらしいね。

【Eさん】

私はふたものにはまっていて、ふたものをたくさんつくっています。ふたものってあけると全然違う文様があって、あけてびっくり感が楽しいなと思います。これだったら例えばこのまま冷蔵庫に入れておいて、このまま出しても手抜き感が余りないとも思います。

【松島九谷焼技術研修所長】

素地は自分でひいたのですか？

【Eさん】

素地もつくりました。

【Fさん】

プロダクトという授業の一環で制作しました。コンセプトとしては、女性のひとり飲みをイメージして注器（つぎ）をつくりました。デザインは加賀手まりから、赤絵細描を使いながら表現できたらなというのでこういう形にしています。底がないので、本来は座布団に置くという形になるのですが、きょうはごめんなさい、ないです。器と１セットで使って飲んでいただく。ほとんど１杯、２杯飲めるかなというぐらいの量になります。

【松島九谷焼技術研修所長】

熱かん？　焼酎？

【Fさん】

いや、日本酒をベースに考えています。

【松島九谷焼技術研修所長】

じゃ、冷酒ですね。

【Fさん】

そうですね。

【Gさん】

私は食器をつくりたくて、ちょっとした小鉢と受け皿をつくりました。最近は古九谷の文様をすごく取り入れたいなと思っていて古九谷の文様を描きました。古九谷の写真集を見て、この上にこういう赤いものを置いたらきれいなのではないかなと思って受け皿に置いてみました。ちょっと何か、つくってみたらくどいなと思って、白生地のほうがすっきりするのではないかなど、日々、そういうことを考えています。

【松島九谷焼技術研修所長】

きょうはせっかくの機会ですので自分の一番これがいいなと思うのを持ってきてもらいました。

【井出市長】

皆さんの将来、ここを卒業してからどうするのかという予定があったり、夢があったり、それを聞かせていただければなと思います。

【松島九谷焼技術研修所長】

２つ目の問いということでいきたいと思います。今、市長さんのほうからもありましたとおり、皆さん方は研究科、本科２年、本科１年ということで、将来、ここの研修所を旅立った後、どんな夢があるのかということを聞きたいです。それから、夢と、その夢を実現するためには何が必要かということ、それから、その夢を実現するための要望とか、何かこんなことがあればいいなというようなことがあったら、あわせて聞きたいと思います。

【Gさん】

私は先ほども言ったのですが、九谷焼を広く紹介していきたいと思っています。ことしからはもっと、先生方からも背中を押していただきまして、すごくやる気で、動いていきたいなと思っています。まずは、自分のアンテナを張ってギャラリー、工房を訪ね、たくさん若手を中心とした作家さんに会いに行きたいなと思っています。

この九谷という業界をホットにしていきたく、私のモットーでもある楽しくしたいということで、まず身近な人たちと、隣の人と話をして楽しく盛り上げていきたいなと思っています。

夢の実現のために必要な要望というのは、やっぱり九谷焼のＰＲの規模を大きくしてほしいなということで、公にも推していただければ、作家さんや業界の士気も上がっていきますし、盛り上げていくのもしやすいのかなと思いました。

あと、私もすごく考えていたのですが、ガイドブックやガイドマップみたいなものをつくってほしいというか、つくっていきたいなと思っています。九谷焼工房訪問記などをしていけたらなと思いました。1,000円ランチという本がありますが、あれを1,000円九谷というものにして、これを持っていけば2,000円のものが1,000円で買えるよといったそういうのにしてもおもしろいかなと考えています。

生活面であればいいものなども考えてきました。やっぱりお昼ご飯を食べる気軽な場所がないので、みんなでお弁当を持ってきて、またそれもいいのですが、ちょっと近くにあればいいなと思います。

さらいの九谷焼を使ったランチは私も大好きでよく行きます。あのような感じで九谷焼の器を使った食べ物屋さんなどがあれば若手作家さんの活躍の場にもなるし、いいかなと思います。

あと、能美市の名産品でハト麦があります。私の実家の父親がつくっていまして、町内で8軒つくっているかと思います。そのハト麦をハト麦茶にしてうちでも飲んでおり、すごくおいしくて、お友達とかに分けてあげたら、「すごくおいしい。あれ、もうちょっと譲ってもらえないかしら」ってよく言われます。すごく美容にも健康にもいいので、ハト麦カフェなどをつくって、九谷焼の器でヘルシーなカフェがあったらいいのではないかなということを考えてきました。

あと、ちょっと変わりますが、能美市の九谷焼について、斎田道開さんと九谷庄三さんというこの２人について、私、寺井町民でしたがほぼ全く知らなくて、庄三の名前は聞いたことがあるぐらいの感じでした。２年前ぐらいに、九谷焼資料館で庄三展があり、見たらすごくよくて、想像以上にすばらしくて、こんなものがあったのかと思いました。九谷焼っていっぱいあるから何が九谷焼かもあんまりわからないのですが、能美市としては庄三、A君の作品のような感じ（赤絵細描）でもいいと思うのですが、何かそういう「能美九谷だ」みたいなものがあってもいいのではないかなと思いました。

【井出市長】

Gさんは九谷の特徴、どんなところが九谷焼だと思いますか？　例えば日本中にいっぱいやきものがありますよね。有田焼もあれば清水もある。九谷焼の特徴って何だと思ますか？

【Gさん】

「九谷焼って何？」ってよく聞かれますが、本当に言えないのです。私は花坂の陶石を使ったもので、上絵具の五彩を使ったものが好きです。

花坂の陶石というのは、白山よりも昔にできているそうです。白山よりも古いものを毎日手にとることができるということに、そのとき感動しましたし、地元の石を使ってつくるものが九谷焼だと私は思います。古九谷を由来とするこの五彩を使ったものがきれいなので、すごく好きです。

庄三風というのも赤が主なところもあるのですが、上絵具も使っているので、五彩を使った九谷が私は好きです。

【井出市長】

なるほど。

【松島九谷焼技術研修所長】

次、F君、あなたはここを、ことしの３月には修了で卒業ということですが、あなたが持っている夢、その夢を実現するためには何が必要かということをお願いします。

【Fさん】

将来的には自身でつくった作品で生計を立てられたらいいなという素朴な夢があります。３月で卒業するに当たり、まだ内定は確実には決まってないのですが、金沢でろくろを今後やらせてもらうことになっています。ただ、一生ろくろ師でいきたいのかと言われるとそれはまた別の話で、先ほども言ったとおり自身でつくったもの、絵も含めてやりたいので、一旦、ろくろで就職する形になりますが、将来は赤絵細描を仕事として続けていけたらいいなというのはずっと思っています。それを踏まえて、本来、本科で終わるところを研究科に入り就職を１年延ばしましたが、ろくろで就職ということになりました。

やりたいことを研修所で見つけても、それを学ぶべきところ、今後、学んでいくには自身の力でやっていかないといけないという現状です。それが現実なので受け入れざるを得ないのですが、せっかく研修所で見つけたものを今後もこの業界で自然と学べていけるようになれば、より後継者が育つのかなというのは今切に感じます。

先ほど自身で学習をするに当たってというところで、いろいろ九谷焼の資料館などで作品展や、商店の商品などを見ていますが、目にするものって結構限られてくると思います。というのも、現代の若手作家さんは、ほぼ東京や金沢で展覧会されているので、ちょっと足を運ばないといけません。地元でされている方は見る機会が本当に限られているので、３年で１回見られたか見られないかという人もいらっしゃいます。そういう方をもっと目の届くところ、手軽に、せっかく地元出身の方々もいらっしゃるので、間近で見られたら、より自己学習という面でも気楽にできるのかなと思っています。

【松島九谷焼技術研修所長】

金沢で就職ということは、生活の拠点も金沢ということですか？

【Fさん】

そうですね。今回お世話になる予定のところは市の補助金の話がありまして、金沢市の工房であり、金沢市の援助金の話ですので、一旦今回は能美市を離れて、金沢市民になります。

【井出市長】

私はあなたの作品を見て、とってもいいなと思っていて、どこかスーパーではなく百貨店に置いておいてもいい値段で売れるのでないかと思っていますが、ろくろで就職なのですね。

【Fさん】

はい、そうなります。

【井出市長】

福島武山先生とあなたの違いって何ですか。あなたは、それをどう捉えていますか。福島先生みたいになるためには、要するに自分でつくったものが100万、200万円で売れるようになるためには、あなたはどうすればいいんだろう。

【Fさん】

先生との違いとなると、恐らく人間的なものからの違いになってしまうので難しいところが多々あるのですが、先生は今の地位を築かれたのは、かなりお人柄が関係されているところがあると思いますので一概には言えないです。ただ、技術的な面というお話ですと、これは先生にもこの作品を実際に見ていただいて、そのときにご指摘いただいたのは、能美市の方言で何か四文字で、時間にせかされて慌てて仕事したみたいな方言があったと思うのですが。かちかちとか何かそういう擬音系統の言葉で…。

【市役所職員】

やちやち？

【Fさん】

それです。その言葉をいただきまして、要するに慌てて仕事しているので、きれいじゃないねという。先生はすごく丁寧にされているので、まず先生との違い、技術面では丁寧さがすごく欠けているというのがあります。時間をかけられないというのも正直なところはあるのですが、もっと時間をかけてつくれたらというのはあるのかなと思います。

一本一本線を大切にしないといけないというのが赤絵においては重要なのかなと考えています。その一本一本の積み重ねが恐らく先生の人柄になっているのかなと、丁寧にするというのが、恐らくお客様への対応にもかかわってくるので、人との接し方、そういう積み重ねが恐らく先生になるのではないかと思います。

【松島九谷焼技術研修所長】

ちょっと話が飛ぶかもわからないけれども、おととし、東京のデパートへ福島武山展を見に行きました。恐らく四十数点出ていて、金額は大体一番安いものでも30万、高いものだと200、250万、それが初日で７割売れたということでした。その先生の周りに、先生のファンの女性たちがいて、先生は自分の図録の裏に赤絵の文様を描きながら、うまくお話ししていて、それが本当に笑顔で、もう100％笑顔という顔で対応していました。

あなたが今言った「やちやち」ということが何かうまくはまって、なるほどと思いました。確かに福島武山先生とあなたとの大きな違いは何ですかという質問で、その答えが腑に落ちました。きっとお一人お一人をもっと大切にしなさいということと、線を大切にしなさいということを先生は言われたのかなと思います。

【井出市長】

なるほど。

【松島九谷焼技術研修所長】

次、Eさん、あなたも卒業した後は研究科へ行かずに、自分の作陶活動にいくわけですから、その辺の夢、それからその夢の実現に向けてお願いします。

【Eさん】

夢はFさんとほぼ重なるのですが、可能であればこの仕事で食べていければベストかなと思っています。

でも、私、そこまで力んでないので、力むのは苦手というか、力むと多分不安が強過ぎて逃げ出してしまうので、副業もしつつでいいかなと最初は思っています。これでいければいきますけど、いけなかったからといって自分にノーはつけない形でいこうかなと思っています。

必要なものとしては、近々、市役所さんのほうにも伺おうかなと思うのですが、空き家バンクのホームページがあったので、空き家、仕事するのに必要な場所を今探しています。今、ワンルームのアパートに住んでいるのですが、それだとちょっと狭過ぎるので場所を探していこうかなと思います。空き家物件などまたありましたらいっぱいためておいてい

ただけるとうれしいかなと思います。

【松島九谷焼技術研修所長】

市役所職員の方、空き家物件の確保、お願いします。

【Eさん】

あと能美市は住みやすいので、私はそんなに観光に特化した市になる必要はないと思っていて、逆に住みたいから能美市に来る、能美市に住んで、外に働きに出て活動するのでもいいのではないかと思っています。何かものづくりしたい人とか、ものづくりが好きな人が集まる、そういう人が住みよい市になってくれれば、そこで家族をつくって定住する人もふえるし、工房の支援も充実してくると思います。そこまで観光に特化するほど、金沢ほどぎゅっとしてないから、逆にそれでいろんな目玉をつくってしまうと、私、田舎のほうが好きなので、そういう人にとっては住みにくくなるかもしれないので、ものづくりをする人たちの支援をいっぱいしてほしいです。

【井出市長】

その思いは私も同じで、能美市を観光地にしようという思いはなくて、どちらかというとここに住んでいてよかったなと感じてもらい、それからものづくりのまちにしていきたいという思いがあります。

たくさんこのまちに訪れてもらい、訪れてもらったことをきっかけに能美市に住んでみたいなとか、能美市の会社に就職してみたいなと思うようなきっかけとして観光を今捉えていて、先ほどから九谷陶芸村という話もありますが、やっぱり陶芸村にも来てもらって九谷焼を買ってもらわないと陶芸村というのは成り立たないわけだから、そこにはものづくりが連動しているわけだし、今、あなたがおっしゃったようなことを私自身も考えています。それでちょっと聞きたいのですが、前は、獣医さんだったのですね。

【Eさん】

はい。

【井出市長】

獣医さんをやっていたことと、今、九谷焼を学んでいることと、何か連動していることがありますか。獣医だったという経験を生かして、この九谷焼の作品に何か込める思いはどうでしょうか、それから獣医だったことを生かして九谷焼の作陶にもっとのめり込んでいこうとかいうお気持ちはありますか。

【Eさん】

獣医だったことで生かせていることとしては、動物の骨格とかはやっぱり頭に入っているので、形とか絵つけとか、生き物らしくつくったり描いたりするところには生きているのではないかなと思っています。

【井出市長】

恐らく皆さんが見ている作家さんというのは、その人しかつくれないオリジナリティがあるのだと思います。だからその作品が売れるわけで、いかにオリジナリティを出すかというところだと思うから、そういったことというのは自分の経験だとか自分の得意技なんかを作品に込めるといいのだろうなと思っていたので、もしかしてその作品の中に、前、獣医だったことだとか、もっとあなたの得意技が入っているのかなと思って、そんな話を聞ければなと思いました。

【Eさん】

どうしても内臓とか細胞とかを見ていた期間のほうが長いので、そういうモチーフを絵つけに使ったりもするのですが、それを苦手な人に話してしまうと気持ち悪くなってしまうので、余り言わないように最近はしています。

【井出市長】

私、石川県の獣医関係の顧問みたいなことを前やっていて、今はやめましたが、獣医さんの話を聞くと犬や猫などの動物が好きだという人が多くいました。動物が好きだったから獣医になったのかなと思ったので聞いてみました。

【Eさん】

動物も好きです。一応ブンチョウが中に描いてあります。

【松島九谷焼技術研修所長】

この間から、いしかわ動物園で、ことしの干支をテーマにした作品展をやっています。今も展示中です。ことしは戌年ですが、動物園に犬はいないので、去年、動物園でおこなわれたイケメン・コンテストの１位から10位までをモチーフにしています。Eさんはホワイトタイガーをつくりました。それが園長から絶賛で、ぜひこれを欲しいとまで言われています。その話を聞いていたときに、吻（ふん）という言葉が出ました。僕も初めてそのことを聞いたので、吻って一体何って聞いたら、この辺（動物の口あるいはその周辺が前方へ突出している部分）のことを吻っていうそうです。

【井出市長】

そうなの？

【Eさん】

吻とかマズルとか言います。

【松島九谷焼技術研修所長】

だから、やっぱり獣医さんだなと思いました。そういう専門的なところが入ってきていて、それから彼女は今、卒業制作で60センチぐらいのお座りしている犬を、本当に骨格から頭の形から生きて飛び出しそうな感じのつくり物をつくっているのですが、やっぱりそういうところに生かされるのかなと思います。

【井出市長】

やっぱり出ているのですね。

【松島九谷焼技術研修所長】

では、次、Dさん。あなたは、もうあと２カ月ぐらいで卒業されますけど、その卒業後の夢、それからその夢の実現に向けて必要なこと、こういうことができればいいなということがあったら教えてください。

【Dさん】

私は小さいときからものづくりの職人になるというアバウトな夢を目標にここまで来ました。入学して、さあ、進路をどこにしようってなったときに、現実なども知らないまま来たので、もっといっぱい就職できるところがあると思っていました。多分、両親も手に職をつければやきものは大丈夫だろうと考えていたらしく、しかし実際は就職先が余りありません。

職人でどこかで雇われて、ずっと同じ作業をしていたいなと思ってここまで来ましたが、実際、いろんな人と話してみると、夢が職人なのかどうかわからなくなってしまいました。今はサポートではないですけど、つくっている人のお手伝い、言葉にまだあらわすことができないのですが、ものづくりも大好きですが、サポート側も楽しいなって思えるようになりました。ギャラリーで売るなどでもいいですし、地域の方と話しながら九谷焼の魅力を、Gさんが言ったみたいな感じではないですが、業界の中が盛り上がればうれしいなって思えるようになって、今は九谷にかかわれればいいなと思って、まだ就活中です。

【松島九谷焼技術研修所長】

あなたはグループ展をこの間やったでしょう。市長さんにも来ていただきました。そのグループ展を通じて何か思うこと、何か考えることってありますか？

【Dさん】

あのとき、すごく地域の方にたくさん来ていただいて、「研修所があるって知っていたけど、やっぱり何やっているかわからないから見られてよかった」って言ってくださる人もいっぱいました。地元の人ほど九谷焼にあまり興味がないのか、嫌ほど聞かされて嫌になったのか、疎遠なのです。「赤絵細描も九谷焼なのですね。」と言っていた人に、いろいろ九谷焼のことを話しながら交流できました。「こんなのだったらもっと買いたいよ」とも言っていて、やっぱり話すことって大事だなって思いました。

【井出市長】

なるほどね。わかりました。おもしろいですね。

【松島九谷焼技術研修所長】

実はこの間、商工会の九谷部会があって、その中で、研修所は技術を学ぶ際に職人を生み出すのか作家を生み出すのかどっちなのかという話が出ました。

これ、ずっとこの33年間言われてきた話です。だけども、自分たちは「職人さんを生み出しているのですよ」ということをずっと言い続けています。「そうではないだろう」と言われます。だけど、組合関係者は「いや、最近の若い子たちはそうでもないぞ。職人を目指しているぞ」って言ってくれました。ここの研修生は本当にこれからもっと業界と関係を深めていければと思います。

次、C君、お願いします。

【Cさん】

夢って言われたら、今はそんなに考えてないのですが、九谷業界に就職して、独立も正直イメージが湧かないので九谷業界に就職しながら、時間をつくって自分のつくりたいものをつくっていけたら幸せだなと今は思っています。

それについて具体的などういう制度が要るのか、どういう補助があったらいいのかについてもあんまりわかっていません。要望は今、特にないですけれども、みんなが言っている窯を買うとき、空き家を買う・借りるなど、そういうときに補助があったらいいのかなと思いました。

【松島九谷焼技術研修所長】

次、Bさんお願いします。

【Bさん】

ものづくりしたいって漠然とした感じで来たのですが、今のところ筆で、筆じゃなくてもいいのですが描くほうが好きかなって何となく思っています。就職についていろいろ先

輩から厳しい話を聞きますが、描くのを続けられたらいいかなって今のところ考えています。

【Aさん】

自分もまだ、研修所を出た後、何をしたいか全然考えていません。ここに来るまでは、入っていろいろと勉強して、将来は九谷焼の業界で仕事をできたらいいなとしか思ってなくて、ここを出てからの夢は全然まだ考えていません。10年後ぐらいにやっぱり独立して自分の作風を広めていきたいなとも思っています。

やっぱり今ある九谷焼もいいのですが、自分は昔の絵を描くのが好きで、昔の古風なものを好きな人もまだいるみたいなので、その人たちに自分がこういうものを描けますということをもっと伝えていけたらいいなと思っています。

夢の実現や要望については余りまだ全然わからないですが、やっぱりお金の面を何とかしてほしいなと思います。そういう資金を、自分はまだ親のすねをかじって生きていますが、ほかの人たち、みんなひとり暮らしとかしている人たちを見ていると、自分もそういうときには何をすればいいんだろうって考えると、お金が必要だなというのを改めて感じました。

【松島九谷焼技術研修所長】

では、今度、Aさんのほうから、九谷焼の業界について、自分はこんなふうに見ている、業界に対してのイメージがあったらお願いします。

【Aさん】

イメージですか、この業界のイメージはやっぱり昔に比べたら衰退しているなというのを本当に何か感じます。今までは販売についてはあんまりよく知らなくて、九谷焼のすばらしさしかわかってなかったのですが、改めてこの業界に入ってみると、やっぱり何か活気が薄いなというのを改めて感じました。

【松島九谷焼技術研修所長】

九谷焼資料館が今、改築中で、立派な資料館になると思うのですが、あそこに対する要望みたいなものはありますか？　特にない？

【Aさん】

特にないです。まだ資料館でどういうことができるかわからないです。

【松島九谷焼技術研修所長】

次、Bさん、業界に対するイメージについてお願いします。

【Bさん】

伝統工芸なので、もうちょっとかた苦しい感じを何となくここに来る前までは思っていました。ここに来ていろいろ先生や作家さんを見ていると、結構皆さんそれぞれで新しいことをやろうという感じで結構頑張っているというか、新しいことにいろいろチャレンジされている方ばかりだと思って、そこはすごいなと思います。

【松島九谷焼技術研修所長】

資料館ができるけど、展示についてなど、こんなことしてほしいなとかあったらお願いします。

【Bさん】

資料館では結構いろんな展示をされていますよね。地元の方はあんまり行かないのでしょうか。さっきGさんが、地元の方でも知らないことがいっぱいあるという雰囲気と言っていたので、見てもらえたらいいのかなと思います。

【Cさん】

業界に感じることは、さっき所長が言っていた研修所は職人を育てているのかという話についてです。いろんな人から一つの企業にずっといない理由を聞くと、ある程度働くと仕事量と給料について感じることがあって、これだけつくれるようになったら自分でやったほうが給料を稼げるということがわかったらみんな独立するという話を聞きました。先生などの話を聞くと、企業も長いスパンではなく３年、５年というのをわかって雇うという話を聞いて、それだとみんなが言っているように職人がいなくなるので、企業側ももう少し手厚くてもらえれば、お互いにいい関係になれるのではないかなと思っています。

【Dさん】

問屋さんたちの九谷焼業界とこの学校と、作家さんたちで個々の意見があるなと感じています。茶碗まつりは問屋さんと窯元さんのおまつりだと思いますが、もうちょっと生徒も入れたら楽しいのにと思います。私たちのことを素人の集まりって思われるのかもしれないのですが、地域の人、この辺りの人は歩いて来ることができるのにあんまり来ない人がいたり、来ても屋台だけでという人もいたり、毎年あるからそうなるのかもしれません。ビラ配りをして、茶碗まつりありますよっていうのを生徒が地域の人に伝えたらそこで地域の交流があったり、九谷焼にも興味を持ってくれたりするのかなって思ったことはありました。

【Eさん】

私はまだこっちに来て２年ですし、業界のことをイメージするほど多分業界のことを知ることができていないのではないかなと思います。例えば私だったら、来年から特定のところには所属せずにアルバイトとしてお手伝いに行きながら自分の作品をつくっていこうかなと思っているので別にいいのですが、例えばさきほど話が出た、職人になりたいという人は１カ所に決めて長年やっていったほうがやっぱり技術としては上がるし、その道のエキスパートにもなると思います。ただ、雇用主側にそうしていくための体力がない、資金的に、お給料も出せない、生きていけない条件で長年働くことになっているのかなというイメージを持っています。現実はどうか知らないのですが。

だから、それで終わるのではなく、それだったらもっといい条件で働いてもらうのに、もっとシェア、市場を広げていけば、それだけ売り上げも変わってくると思うのですが、そうしない腰の重さ、動かないなというイメージを持っています。でも、実際はどうかわかりません。場所によってはどんどん伸びていく社長さんもいますし、止まったままだという社長さんもいるだろうし、一概には言えないのですが、そのような印象を持っています。

【Fさん】

私もまだ学生の身で、問屋さんなどとお仕事させていただいてないので、あくまでも研修所にいる間に聞いたうわさでしか入ってきません。たまたま少し前に同世代の問屋さん、若い方たちとご飯食べる機会があり、お話しさせてもらっていたら、皆さん結構すごくやる気があって、うわさで聞いているよりもこちら寄りに立ってくれる人たちでした。もっと学生のうちから、この研修所にいる間からそういうコミュニティ、つながりがどんどんできていけば、学生で入ってきた人の問屋へのイメージが変わりますし、若いときから問屋さんとくっついて仕事の話などができるので、独立ないし職人として雇われた後も未来、将来の設計も立てやすいのかなと思います。もっと商工会の青年会の方々が研修所にどんどん入ってきていただけたらありがたかったかなというのは、その方々と話をしていて思いました。

実際にそのお話しした方も、研修所とつながりたいということで私に話が回ってきたので、向こうもその要望があって、学生も学生でそういう方々と知り合いたいという欲求はあると思うので、何かしらマッチングする機会があったらすごくいいのかなと私は思っています。

【Gさん】

私が入ってきたときに、同級生、クラスメートを見ていたら、みんな割と職人のイメージで入ってきている人が多かったです。でも県外の講師の方は「職人として生きていくことはむずかしい」とおっしゃっていました。それはお金が稼げないからです。だから、アーティストにならないと、自分で作風を生み出していかないと生きていく道はありません。それしかないということをおっしゃっていて、そこからやっぱりみんな切りかえて作家のほうに向かうようになっていると思います。実際、同級生が、業界の募集要項を見たら、正社員でも時給で800円です。私は年齢が上のほうですが、例えば10歳若くて東京で仕事をやめて能美市に来てひとり暮らしをしてやっている人がいます。研修所の約半数は県外から仕事をやめてひとり暮らししてやっているのですが、時給800円で、家賃も払わないといけないし、車も維持しなければならないし、研修所にいる間は貯金を切り崩してアルバイトをしながらやっていたのですが、就職しても貯金はどんどん減っているそうです。せっかく東京や県外からこっちに来てひとり暮らしして、ここで就職しているのに、やっぱり一生ここにいるようなそんなプランが立てられないので、すごくかわいそうだなというのはあれですが、もう少しもうかるというかお金がもらえるような、せめて普通の会社ぐらいもらえたとしたらもう少し将来も見えるのではないかなと思いました。

【井出市長】

最後の質問です。皆さん、ものづくりに携わっていらっしゃって、やっぱりつくっているものが使われないと、もっと言えば売れないと、皆さんの生活もできなません。

では、どうすればいいかという話を聞きたいのですが、冒頭でも言いましたが、この食器というのは生活様式が多様化になってきて、例えばファーストフードのハンバーガーを買って、あれを食器に移して食べる人というのはまずいません。あのまま食べています。コンビニのお弁当もそうですね。九谷焼の業界が一番盛んなときはそんな時代ではなく、まずは食器に食べ物を移して食べていたり飲んでいたりしていた時代ですが、今はそうではありません。

それから、九谷焼というのは床の間に飾る商品が主流でした。ところが今の新しい家というのは、そういうものを飾る場所が少ないです。新しい家を建てても、つぼや大きなお皿を飾るスペースなどありません。強いて言えば陶板のようなものを壁に飾るところがあるのだろうなといったところです。

でも、武腰潤さんや福島武山さん、そのほかのいろんな作家さんの商品は売れています。あれはその先生にしかつくれないもの、作風があるから売れるのだろうし、それから市内

の業者さんは例えばＵＳＢをつくったり、名刺入れをつくったり、どくろに絵をつけたり、自転車をつくったり、今までにないものをつくって売れている人もいます。アニメのフィギュアをつくって爆発的に売れている人もいます。結局、ニーズに合ったものをつくるか、新しい使い方、今までになかったものを提案するということをすれば、使われたり売れたりしていくことになりますが、さあ、皆さん、どうしますか。

夢などを語ってもらいましたが、いよいよ卒業する、やっぱりそれで生活していくためのそれだけの給料も稼がないとやっていけません。さあ、どうするというところで、どんなことを考えているのか最後に聞いてみたいと思います。

【Gさん】

私は、自分の話なのですが、ワインが大好きで、ワイングラスがすごく売れているという話を聞きました。例えばガラスとくっつける、鉄とくっつけるなど、ほかの異素材とくっつけて、なかなかくっつかなさそうですが、そういう技術ができればいろいろ展開できるのではないかと思いました。

【井出市長】

なるほど。

【Fさん】

私はとりあえず、「技術を磨きながら」ということが重点的になっていると思いますが、商品は以前のもので同じ形式で売っていこうとしたらやっぱり無理があると思います。これからの時代、今の時代もそうですが、趣味趣向にお金を使う人たちは多いと思います。私の作品もそういう観点で女性のひとり用というのでつくりました。お金を使うところで気に入って手に取ってもらえそうなもので、よりきれいなものというのを目指してつくっています。

今後、先がどう変わっていくかわからないのですが、とりあえず今、手に取ってもらえそうなところで、それがより技術が高いもので伝統的なものであれば受け入れてもらえるのではないかというのを目指して、今のところつくっています。

【Eさん】

私も技術のあるきれいなものは売れないなんてことはないと思います。こもってちまちまつくっているだけだったら人目につかないので、いいものをつくって、自分で動いて、マッチする人を探すということが必要だと思うので、がつがつ動き、つくることが必要ではないかと思います。

【Dさん】

私はさっきFさんがおっしゃったように若い問屋さんの話で、問屋さんの息子さんと話す機会が何回かありました。息子さんたちはやっぱりお父さんたちの世代を知りません。さきほども言っていましたが学生とつながりたいって言っていて、そういう若いこれからの業界を引っ張っていく人と、今まで業界を引っ張ってくれた人達みんなで話し合いや意見交流をいっぱいして、知識をふやしてから技術を上げて売れるといいなと思います。まず、私は話し合い、話を聞くことをしていきたいと思います。

【Cさん】

最近は、安いものではなく、洗練されている高くていいものが売れるというようなことが起きていると思います。100円均一の商品が売れているので何とも言えないのですが、みんなが言っているきれいで機能性もあって、ちゃんと使えるものをつくれば、買ってくれる人は買ってくれると思います。そういうものをつくるか、あるいは注文を受けて完璧につくれる人がいれば絶対に廃れることがないと思うので、自分の中でどっちがいいかというのを探していきたいと思います。

【Bさん】

私も皆さんが言っているように、どういうものが求められているか知ることと、あと自分でつくって技術を上げることと、今はＳＮＳもあるのでＰＲすればいいのではないかと思います。

【Aさん】

自分も何が売れるかというのは余りよくわからないのですが、やっぱり欲しい人のニーズに応えてそれを描くというだけだと、自分が描きたいというものを描けなくなると思います。やっぱり自分が描きたいものを見てもらって、九谷焼を欲しいという人もいれば欲しくないという人もいるので、その欲しい人に自分の作風を提供して、そういうのを余り要らないという人にはやっぱり、新しいニーズに応えるようにできたらいいなというのを考えています。

【井出市長】

ありがとうございました。

【松島九谷焼技術研修所長】

大体時間が来ました。最後の市長さんからの質問が一番究極のところだと思います。

九谷焼は平成２年のときに売り上げが166億ありました。現在、平成27年、28年の資料で

は42億、43億という数字になっています。さきほど、昔はよかったという話をしましたけれども、絶好調のときと比べると約４分の１まで下がってきているわけです。

こういう時代の中で何が必要かということだと思うのですが、皆さん方がこれから卒業あるいは本科２年になっていったときに、もっと自分の引き出しを多くしていってほしいなと思いますし、また、いいものをたくさん見るということも大事です。今はそういう引き出しを一つでも二つでもふやしていくというのが、あなた方のやるべきことかなと思います。

【司会】

どうもありがとうございました。きょうは本当に大変たくさんのご意見頂戴いたしまして、本当にありがとうございました。

市長もしきりに、うなずいていらっしゃったのがすごく印象に残りました。本当にありがとうございました。

【商工課長】

本当にきょうは、貴重なご意見をたくさん聞かせていただいて勉強になったなと思いますし、まだ本科に入って１年目、２年目にもかかわらず、いろんなことを勉強されていたり、情報収集したり、自分の意見をお話しできるというのは大変すばらしいなと思います。予想以上にすごく的を射たご意見が出てきていることが本当に印象的でした。

これからもやっぱり九谷業界を支える上では、若手、皆様方のような作家志望、また職人志望の方と業界がより密着した、密接な関係になれば一番いいと思いますので、できる限りの支援をしていければなと思います。Eさんにおかれましては空き家のご要望もいただきましたので、一生懸命検討させていただいて情報提供させていただきたいなと思います。

【司会】

それでは最後に、松島所長さんのほうから一言ご挨拶お願いします。

【松島九谷焼技術研修所長】

本日は足元の悪い中、井出市長を初め能美市の企画振興部次長、商工課長のほかたくさんの方々にお越しいただきましてありがとうございました。

このタウンミーティングというのは、井出市長さんの肝入りでこれまで18回行われ、そして、1,000人を超える方々がこのタウンミーティングに参加されたということを聞いております。

このたび、そういうタウンミーティングをこの研修所でやりたいということで行われま

したけれども、最初は垣根があったかなと思いますけど、市長さんの人柄によりまして本当に忌憚のない意見がどんどん出たのかなと思います。

研究科の方々はもうあと２カ月足らずで卒業ということで、卒業制作の真っ最中です。それから、本科２年は課題作品、それから自由作品の卒業制作あるいは与えられた課題の最終ゴールでもう４コーナーを回って直線コースに入っているのかなと思います。また、本科１年のお二人も、これから２年に上がって、さらに専門的な、もっと課題が多くなると思いますけれども、先輩方の背中を見ながら頑張ってほしいなと思います。

これから能美市におかれましても、きょう、皆さん方の出た意見を、また九谷焼産業の振興に一つでも加えていただければ我々もありがたいなと思います。

本日は本当に能美市長さんのこれだけの応援があるということが、皆さん方、わかったと思いますので、これからも本当にぜひ支援のほどをよろしくお願いしたいと思います。

本日は本当にありがとうございました。

【井出市長】

ありがとうございました。頑張ってください。